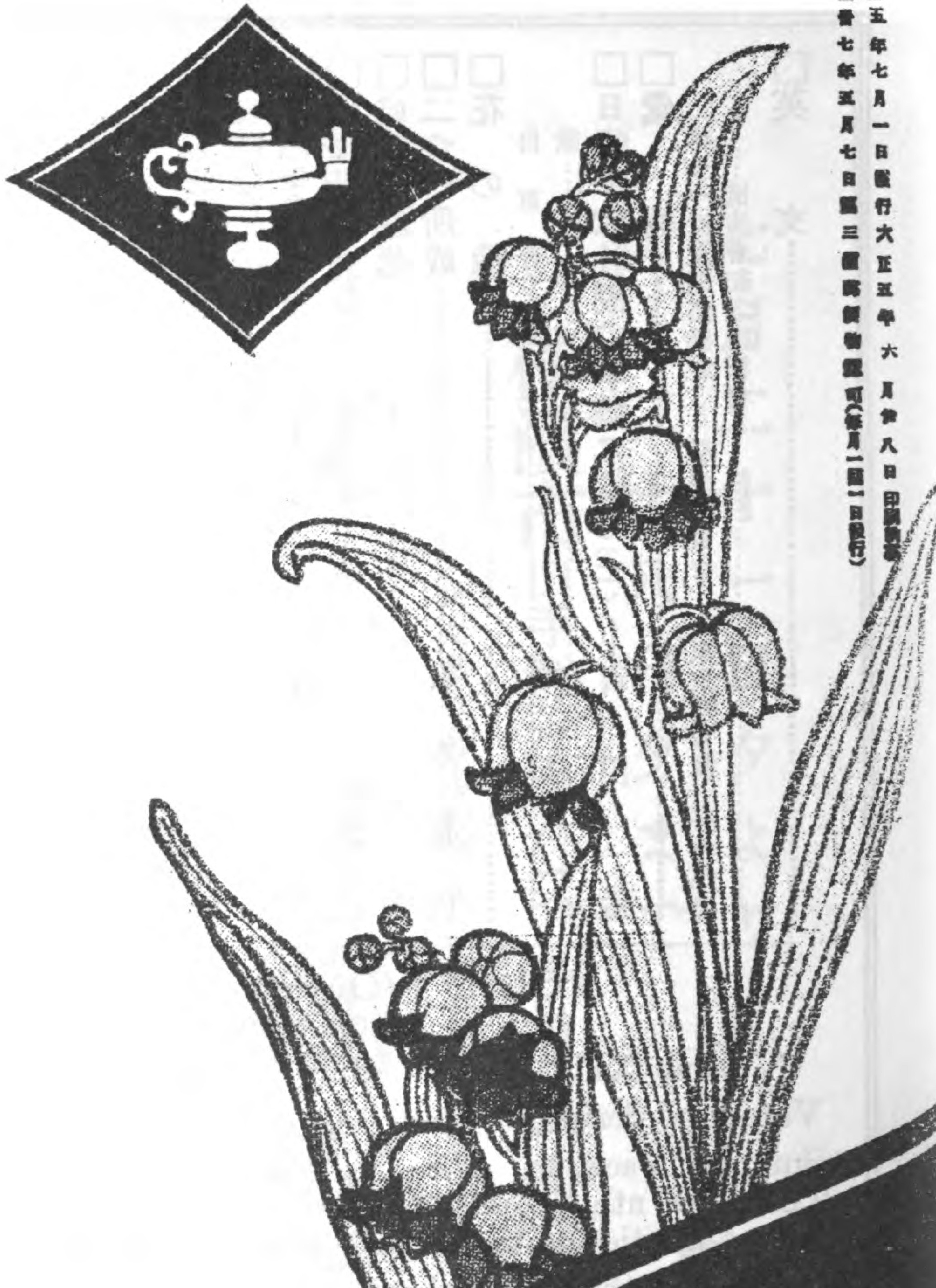
大正五年七月一日發行　大正五年六月廿八日印刷納本
明治卅七年五月七日第三種郵便物認可（毎月一回一日發行）

女子青年界



第十三卷　第七號

要目

□卷頭聖語……
□夏の休の時……
□第十一回夏期修養會……
□放蕩息子の比喩……植村正久
□シカゴに於ける幼年裁判……マクドナルド
□交戰國に於ける青年會の働……
□筆のまに／＼……松宮彌平
□日曜學校教授の準備に就て……吉田敏
□彙報……
□英文……

女子青年界第十三巻第七號

目次

□巻頭聖語(恒忍久耐)……
□夏の休の時……
□第十一回夏期修養會……
□基督教女子青年會の活動と其機關(七)……
□放蕩息子の比喩……植村正久
□シカゴに於ける幼年裁判……ミス、マクドナルド
□二方面の調和……鈴木三郎
□交戰國に於ける青年會の働……
□筆のまに／＼……松宮生
□爾は世の光なり……富山國枝
□或日の感想……一會員
□二つの所感……坂本花代
□花の籠……
白百合……
歌……辻村靖
□日曜學校教授の準備に就て(二)……吉田敏
□彙報……
第十一回夏期修養會……學生委員會……東京基督教女子青年會……廃清會紀念講演會……
□英文……

YOUN WOMEN OF JAPAN

(JOSHI SEINEN KAI)

Volume XIII July, 1916 Number 7

Verses of Scripture ....
Summer Vacation ....
The Eleventh Summer Conference ....
The Activities of the Young Women's Christian Assocoation ....
Parable of the Prodigal son.... ....Rev. M. Uyemura
Juvenile Court in Chicago ....Miss Macdonald
Harmony of Two Ideas ....Rev. S. Suzuki
The Activities of the Y. W. C.A. in the Belligerent Countries ....
Stray Thoughts ....Mr. Y. Matsumiya
The Thoughts of a Day ....a Member
Two Impressions ....Miss Hanayo Sakamoto
Poems ....Mrs. H. Tsujimura
Preparation for Sunday School Teaching ....(II) Mr, Toshi Yoshida
Miscellaneous
The Eleventh Summer Conference; Student Committee Meeting;
Tokyo Y. W. C. A. Meeting of the Purity Society
Fnglish Page

七月二十一日夕より
同　二十八日夕まで　七日間

横濱市山手町一七八フエリス女學校に於て

（出席は有志の婦人は誰方でも差支ありません續々御申込ありたし）

第十一回女子夏期修養會

出席申込は可成至急當本部へ

詳細は申越次第返信す

東京市神田區北神保町十四番地

日本基督教女子青年會本部

電話本局五九八番
振替口座東京二三七二三番

女子青年界 第十三巻第七號 （大正五年七月一日發行）

恒忍久耐

我裸にて母の胎を出でたり又裸にて彼處に歸らん、エホバ與へエホバ取り給ふなり、エホバの名は讃むべきかな。

ヨブ　九ノ十五

我儕神より福祉を受くることなれば災禍も亦受けざるを得んや。

ヨブ　二ノ十

是はエホバなり、其のよしと見給ふことをなし給へ。

サムエル前三ノ十八

耶蘇涙を流し給へり。

ヨハネ十一ノ三十五

彼はあなどられて人に捨られ悲の人にして病患を知れり、又顔を掩ひて避くることをせらるゝものゝ如く侮られたり、我儕も彼を尊ばざりき、誠に彼は我儕の病患を負ひ我儕の悲を擔へり、然るに我儕思へらく彼は責られ神に打たれ苦しめらるゝなりと。

イザヤ五十三ノ三、四

主は其の愛するものを懲しめ又すべて其の納る所の子を鞭てり。

ヘブライ十二ノ六

凡ての懲治今は悦ばしからず反つて悲と思はる、されど後之によりて鍛錬するものには義の平和なる果を結ばせり。

ヘブライ十二ノ十一

すべてのこと喜びて恒忍かつ久耐

コロサイ一ノ十一

我この事を汝曹に語りしは汝曹をして我に在りて平安を得させんためなり、汝曹世に在りて患難を受けん、されど怖るゝなかれ我既に世に勝てり。

ヨハネ十六ノ三十三

會説

夏の休の時

今や夏休の時期になりましたが。これ實の私共の過去の勞を癒し、且將來の進歩のために與へられたる天の賜であります。

春といへば萬事萬物が更新する時期であつて、年から言へば舊年を送つて新しい年を迎へる事であり草木などから言へば、すべての枯れ果てた所から活々とした新しい生命の發露して來る時であります。そして自然に伴ふて人々の心の上にも何となく陽々たる氣分が漲つてゐるのは。春にこした時期はありません。これは昔の人にも今の人にも誰れにも同じやうに感ぜられる所の感じでありませう。

勿論、春は年の更新する時、草木の萠出る時、人の心も冬の寂寞から離れて、陽々として愉快な氣分の漂ふ時であつて、すべてが快活新清に感ぜられゝに相違ありません。けれども、私共の一年中の仕事の上から言ふと、春は決して新しく改まる時期ではありません。私共の仕事の實際から割出して見ると、春は前年より繼續して居る働が多くて、其の中途乃至は其の一段落に近い時期であらうといふのが穩當であつて。決して新しく改まる時期ではないので御座います。

されば私共の日常の仕事のことから、又働の實際のことから考へて見て、草や木の新しい生命が萠出る春の如くに、萬事更新の生氣に滿つる時期は何れの時節であらうかと言へば、それは外でない、即ち秋であると私は思ふ。言換へれば私共の仕事は年々秋に始まつて初夏に終るのであります。これが私共

當な年度であります。

故に私共に取つて一番樂しい時は私共が一年度の豫定を終つた時、即ち夏であります。夏は前年の秋から始まつた働を終へて、更らに來るべき秋に於て始まるべき仕事に達する間の休憩時であります。私共は冬に於ても春に於ても多少の休む時はあります。けれども打ち寛いだ休を持つこと、夏の休のやうな時期は、他に於ては決して得られません。實に夏の休は過去りし一年間の働の一段落に際して心からの休養が出來る時であります。安息日が一週に於ける唯一の慰安である如く、夏は一年に於ける安息であるといつてよいのであります。もとより年が年中規律も順序も何もない生活を送つて居る人々や、徒に手を袖にして惰眠をこれ貪つて居るやうな人々のための夏休は、それが打ち寛いだ休であることが出來ないばかりでなく、却て苦痛であるかも知れません。けれども年中の豫定された業務の下に、又は一定した課業の間に孜々汲々として刻苦勵精したものが、其の課程を踏んで夏休に入ることは、喘々として廣漠たる砂原を旅する旅人が、翠綠滴る樹陰を見出して息を入るゝの愉快よりも一層愉快であり、其の歡樂よりも一層の歡樂であるので御座います。

そして又た夏の休は啻に私共に取つて打ち寛いだ愉快な休養が出來るといふのみでなく彼の旅人が綠陰に息を入るゝと共に、過去の疲勞を癒して、更に新しい旅程を進める勇氣をも起し得るやうに、更に進んで新しい活動に備ふる新しい英氣と希望を養ふ時ともなるのであります。

「寢る兒は太る」といふが、睡眠の必要は太る兒のみではありません。苟も明瞭な意識活潑な腦力をもつて、立働かうとするものには、睡眠は何物よりも大切なものであります。しかし睡眠の必要は睡眠そのものゝ爲に必要なものではありません。言ふまでもなく身體腦の休みは新に來るべき仕事に對して、能く意識し能く判斷する能力を養ひ得る爲に必要なのであります。私共の仕事や働の方面から考へても矢

張りそれと同じ道理であつて、即ち夏の休は休たるには相違ないとしても、休み其ものの爲に休むのでなくて、其の休によつて來るべき一年間の業務なり課業なりに堪ふる活動の準備と修養を怠らないやうにすること、猶ほ腦の休養によつて其の意識力や判斷力を増すと同じやうにする必要があることを忘れてはならないのであります。されば此の夏の休の時こそ私共が精神上の訓練をなし、未だ平生に修養することの出來なかつた修養に心懸くべく、又未だ不斷に經驗することの出來なかつた經驗をも積むべくそれが樂しい愉快な事である上に、なほ大いなる意義あるものになるであらうと信ずるのであります。

　夏は決して空しく過すべき時ではありません。願くば私共はこの夏の休の時が一面には過去の勞を癒し、一面には進歩のために與へられた天の賜であることを記憶して、極めて有益に極めて有意義に此の時期を過し得んことを希望する次第であります。

第十一回夏期修養會

我が日本基督教女子青年會の主催なる女子夏期修養會は、本年は其の第十一回を七月二十一日より同二十八日まで一週間横濱市山手フエリス女學校に於て開會することゝなり、委員諸姉の少なからぬ盡力によつて、既に準備の大半を了し、今後二旬にして全國各地より來會さるゝ諸姉を歡迎する運びになつて居ります。

　年々に開會せられ來りし此の夏期修養會が、如何なる結果を齎しゝかは、毎度來會者に對して多大の滿足を與へ、靈的活力に生き返つて散ぜしむるに見るも、明に推知し得らるゝ所であつて、私共は此の催の決して徒らならざるを確信して居るものであります。のみならず、此の催が全國各地より出席せし青年女子の各個人々々の靈性の涵養及び智識の發達のために、將た又た全國各地に渉りて、青年女子の間に=女子學生を中心としての=基督教的智識の普

及び獻身的信念の擴張のために、如何に有功なりしかを思念せずには居られないのであります。而して此の女子夏期修養會が年々に其の出席者の數を增加し、講演其他内容も亦頗る充實し來るを見て、私共は衷心より感謝と歡喜に充ち、更らに本年の修養會がより以上の成功を齎すに至らんことに多大の希望を屬して居る次第であります。

どうぞ、本年の修養會にも亦全國各地の各女學校の諸姉をはじめ、學生たると學生ならざるとを問はず、又其の女子青年會員たると會員たらざるとに論なく、苟も靈的生命の充實を望む有志の姉妹が、奮て續々來會して私共の希望を空ふすることのないやうにありたいものと祈つて止まないのであります。

本年の女子夏期修養會の擧行順序及案内は本誌彙報欄に揭載してあります、就て一覽されたし。

基督教女子青年會の活動と其機關（七）

傳道委員の事（つゞき）

ミス、マクドナルド

以上に述たる所によりて傳道委員の責務の大要は明になりしことゝ信ず。されば傳道委員が其の責務を實際に遂行するには如何になすべきかに就て少しく述ぶる所あるべし。

社會の狀態及社會問題の由て起る實際を會員其他のものに知らしめん爲に集會を開催せんとする場合には、これが準備として委員は一ケ月位以前よりして毎日の新聞又は雜誌等を詳しく通讀して特別に注意すべき社會上の事實を認むれば出來る丈けこれを切抜き、同時に其の事實の眞相を調べて如何にしてこれを會員一同の前に發表すべきやを委員互に協議し、能く準備を整へて後、始めて集會を開くべし

るもよろしかるべし。

其の集會は如何なる名稱を附するも差支なし、或は社會問題研究會とするも、或は時事問題研究會とするもよろしかるべし。

又或時は慈善事業の取調をなすが如きも頗る有益なるべし。例へば東京なり大阪なりに設立せる貧民學校とか育兒場とかの實際を調査するも非常によき敎育となるものなり。或女學校に於て生徒をして肺結核問題に就て調査せしめんと思ひしかど、生徒には其の調査の方法手續等につき一切不明にして殆ど其の道なかりしが、敎師より肺結核の問題について盡力する白十字會のあることを生徒に告げて、其の取調の端緒を與へしにより、早速生徒は白十字會に手紙を出して調査の資料を贈られんことを求めたり然るに白十字會は態々幹事の一人を派して其の問題の講話を試むべしとの親切なる返事に接したるを以て、一日肺結核問題講話會を催し、幹事より直接に問題の實際を聽取し得たるのみならず、尚ほ種々の質疑をも爲すことを得て、該問題に就てのはつきりした智識を與へられ、更に進んで其の詳密なる統計などを調べんと統計局に照會するといふ順序になり轉じて市の衞生局にも行き傳染病院も尋ね、種々の方面より種々の材料を得て、十分の調査をなす事を得たることあり。斯くの如く何の問題たるを問はず小さき端緒あらば決して忽にすることなくして、調査の道を辿り行くべし。然らば遲かれ早かれ其の問題を詳しく知ることを得るに至るものなり。傳道委員は常にこの小さき事をも忽にせざるの注意を要す。

傳道委員がこの綿密なる注意を以て終始熱心に會員を社會救濟及傳道の方面に誘導せんことを心懸けなば、基督の精神に基く救の道を開くこと疑あらず前にも述べし如く、能く調べ、能く考へ、能く行ふの三要件を實際に爲さるゝ所に實に傳道委員の價値は認めらるゝなり。(完)

放蕩息子の比喩

牧師　植村正久

路加傳十五章の放蕩息子の事をお讀みになると、全く反對して居て晝と夜ほどの相違がある二つの事實があらはれて居るのにお氣付になるであらうと思ふ。第一は非常に歎かはしき心を惱まして悶え苦しませる所の事實である。これは言ふ迄もなく一人の子供が放蕩に墮落して罪を犯し、家出をして遠き旅の空に彷徨して居るのみならず、何もかも賣り拂ひ遣ひ果して、食ふにも食物なく、身を寄するにも賴るものもない悲慘な狀態に陷つた窮狀、誠に憫然たるものである。私共はこの放蕩にして我儘な息子の成行を見、この苦しめる狀態を思ひ合すと、私共各自の身の上に取つても發明する所があらうと思ふ。又次には親の心、如何に苦痛を感じて居つたかといへば言ふ迄もなく日々懊惱として樂しまず、悲嘆に沈んで居たに違ひない。これも我々をして天に在す神の事、又其の御歎きを推し奉る時に勿體なく畏多く感ぜしむる一個條となるのである。且其の家の召使下人共も亦苦痛を感じて居たに相違ない。何か物足りないやうに感じて、恰度羅馬書八章に一人の罪は萬物これがために苦しみ歎き、苦惱に壓迫されて發育を妨げられるやうな有樣に在ると記してあるやうに、其の家の下僕までが放蕩な息子のために、のび〳〵した日を送ることも出來ないで居たと考へねばならぬ。此の家は上から下まで悲歎と苦痛に充ちて黒雲に蔽はれて居るやうな有樣であつた。然るに此の家の總領息子即ち兄は如何であつたかといふと彼は一生懸命に職業を勵み汗水をながして働いて居る。中々身持の良い几帳面な男である。しかし左程

に弟の事などを案じて弟の身の上を心配するといふやうな様子は見えない、一言にいへば利己主義である。そして少しも親の心持などには察しがない。思ふに兄は弟の事などは餘り考へないで唯自分の骨の折れる位の事には愚痴を漏したかも知れないが、精神的に深い思を有つことはなくて、稼ぐ一方で世渡りをして居たやうである。是は言はゞ兄息子の墮落である。恥辱である。誠に卑しむべきことである。成程彼の生涯は暗夜に光つて居る光のやうに見えるが、しかし其の光には何の痕形もない、恰も螢の光のやうである。されば此の家は益歎かはしい黒雲に包まれた有様である。

　更らに次の事柄を見ると、一方は今申上げたやうな有様であるに、玆には全然違つた事柄を認めるのである。即ち放蕩に身を持ちくづした弟息子が、悔改めて歸宅した。さうなると家内中は打つて變つた有様となつて、家中が浮き立つやうになつて親を始め家のものは皆誠に喜びと福に充される。誰も皆幸福を求めないものはないが、かうなるとどちらが眞の幸福であらうか。兄息子が幸であらうか。弟息子が幸であらうか。私は今其の幸福を二三の個條に別けてお話して見たい。

　第一、この親は確かに弟の失敗墮落に對し之を放棄して置かない、種々と心を砕いて百方手を盡して其の息子が正道に歸るやうに努力して居たに違ひない。又出奔して後も唯手を拱いて從らに歸宅を待つて居たのではなく、確かに彼の九十九の羊を野に殘して失はれた一匹の羊を尋ねに行つた牧羊者のやうに、又一枚の貨幣を失つた婦人が燈をつけて家のうちを隈なく探したやうに、否それよりも猶一層の熱心を以て其の子の悔改めて歸ることを願つて手をかへ品をかへて探して居たに相違ない。其の居所が分つてからも種々様々に力を盡したに相違ない。即ち其の息子が歸つた時に其の父は「我子死にてまた生き、失ひてまた得たればなり」といつて居る。又其の息子が歸つて來るや直に「美服を携ち來りて之に

着せ、其の指に環をはめ其の足に履を穿せよ」と僕に言付けて居る。如何にも芽出度きことである。これ神が人を救ふて喜び給ふ有様である。神を忘れて居た人が氣がついて神に歸る時に神の喜び給ふ狀態である。一體罪のある生涯と罪のない生涯が救はれて罪のないものとなつた生涯と何れが眞に幸福であるか。これは考方によつては間違が起るが、種々の苦しみから救上げられた時の喜は實に大したものである。此の放蕩息子が歸つた時の親の歡喜に同情して誰も其の喜を共にしたいと思ふのは當然であると思ふ。

第二は此の放蕩息子が終に悔改めて親の許に歸つた時の其の息子自身の悅である。息子は勇氣を揮つて心配しながら、我儘放蕩を盡した後なれば家に歸つても果して赦されるかどうかと思つて、心細く考へた點も多かつたであらうが、歸つて見れば眞に案外なことばかりで、全く豫想外であつた。親が自身で見る影もない自分を迎へてくれる、且其の喜悅、これを見た時の息子の心は如何に嬉しく感じたであらうか。年來の苦痛も艱苦も心配も煩悶も皆一時に消え失せて唯喜に充ちて天にも擧げられたやうに思ふたであらうと思はれる。私は玆でこの歸參して親から赦を得た喜にみちて居る息子のことを考へて見たい。私共基督教信者のうちに天に在す父が如何に人の不信仰や罪惡に溺れて居ることを見て歎き悲しんで居り給ふか。又神が一人にても救はれた時には如何に喜び給ふかを思ひやるべきである。自分を始めとして人がすべて惠を受けて救はれ罪惡に沈んで煩悶するに引換へ、十字架の意味をさとり重荷を負ひ給ふた其時人の智識に超えた悅を味ふことが出來、自らも亦これを經驗し、又他の人もこれを味ふことの出來た時如何に嬉しからんと思ふ心持が滿ち、そして恰度此の家の奉公人や下僕共までが、主人の喜、弟息子の身の上につきて其の喜を共にする恰度さういふ風に信者たるものは皆此の救に就ての神の喜、人の幸福を共に考へ、自分の身の上から人

の事をも考へ、一人のものが救はるれば天の中に喜があると言ふか、それと同じやうに一人の決心者が出來た時にも、他人の事と思はないで父なる神の心を察し十字架の意味を思ふて喜ぶべき筈であると思ふ。

然るに此の家の兄息子は下僕共が主人の喜を共にするにも拘らず、父と共に喜ぶことも少なく、又犢の如く憫れな弟息子の樣子に同情することもない。處が兎もかくも此の家は今急に夜が晝になつた樣に家内中が歡喜に溢れて居る、畑から歸つて來て家に近づいて見ると鳴物の音が聞える。下僕等は兄息子の顏を見るや『汝の弟歸りたり恙なく彼を得たりしにより汝の父●肥えたる犢を屠りたり』といつて歡び勇んで居る。家中が幸福の光に滿たされて居る。斯る氣分=救つた喜びと救はれた喜び、主人と當人ばかりでなく、傍に居るものでも猶其の歡喜と幸福の分配に與かる。此の精神が充ちて居れば傳道の精神は湧くが如くに生じて來る。然るに御覽なさい、彼の兄は自分の弟は放蕩であるし、家は火が消えたやうに陰鬱の氣に鎖されて居ても一向頓着しない。唯ある田圃へ出て牛馬の如く又機械同樣に稼いで居る。此の几帳面に働く所にも成程一つの道德があるけれども『我多年汝に事へて來た汝の命に背かず、然れども我友と樂しむに羔をも與へし事なし……』といつて居る、これが其の兄息子の量見である。親に眞心をもつて親切に事へるといふやうな考はない。始終かやうにして貰ふのが當然である位に考へて居る。彼れは此の世の中は日雇取の働場同樣に思つて居る位である。家庭ではない工場である。而して傭人根性を出して居る。よく自分の任務を守つて警察の厄介にはならぬが、眞實の愛、眞に親の家に働く孝子とは見られない。勿論親切もないが弟の事などは更に考へない。唯利己的主義的である。實に憫然たる道德である。冷かな道德である。此の世の中にはこんな風の辛抱人紳士が幾何もある。斯る人は餘り世を厭ふとか人生問題に心を惱ますとかい

ふことはない。斯る人の有する心配は只愚痴である多く働かねばならぬ、骨が折れて困る位が關の山で大きな心配＝人の靈の深き底までも動かすやうな大憂がある譯ではない。そして自分の小さい瑕だらけの道德に安心しまた平氣で居る。且誇つて居る。それで僅なことが氣に障る。もつと多く俸給をくれさうなものだなどと不平を起して要求するが、要求することは知つて居ても外の事は知らない。受るよりも與ふる方が幸であることを知らない。そして其の淺薄な取にも足らない道德又は自己の狀態に滿足して居る。病なきものは醫者の助を求めずとは此事である。かういふ人は信者であつても其の信仰狀態が頗る貧弱で、基督を信ずるといひながらも其の信仰が深くない。又或點から見ると能く働き能く務めるが、靈とか神とかいふ問題になると薩張り念頭に置かない。餘り考へる事もしなくて滿足して居る。恰度總領息子と同じであつて、此の種の道德家勤勉家は如何に頭數のみ多くあつても家の中は喜ばしい空氣は通はない。

又今彼は家に歸つて其の父に向つて弟の事に就て「妓の爲に汝の業を耗したる此の汝が子歸ればこれが爲に肥えたる犢を宰れり」といつて居る。實に兄息子は批評家である。感情や觀察が敏活である。自分免許の裁判官である。基督信者の中にまた此のやうな人が多い。即ち理想は高くなつて色々品性の事などは能く知つて居る處から、種々の批評をする。世の中の人は辯護士と基督信者ほどやかましいものはないといふさうだが、實際さうであるかも知れない。これは或る場合に於ては徒らに好ましくないとは言はれないが、しかしまた弊害のあることにも考へ及ぼして見ねばならない。

親は日夜案じ暮して居る。弟は零落して居る。何とかせねばならぬと思つて、立つて居ても居られぬといふ氣分が其の心に充ちて居らねばならないのが、此の場合の兄なるものゝ心であらう。されば弟が今歸參したと聞けば歡喜に滿ちて家に飛込んで弟

と抱合つて物語するのが人情であらう。然るに彼は親の心も察せず弟を救ひ出したいとも思はず、僅に家に附着して居る其の家の寄生物に過ぎない有様で眞底から家の事でも考へて居らない。若し彼が眞實に弟の事を考へ心配もして何とか弟のためにしたいと思つたならば斯る心持になれる筈もないし、又斯る言をいふ筈もない。弟が歸參したので家内中の大喜びで全くお祭のやうな騒をして居る、道を通る人も其の喜に與りたいと思ふ位であるのに、彼兄息子は其の歡喜の席を避けて居る。話を聞けば忿腹が立ち妙な心になつて尻込みをして拗て居る。自ら僻んで仲間から離れて居る。此の兄息子の事を考へて見ると私共お互の身の上の事にも多く思ひ當る處があるではあるまいか。

私は此の十五章の事柄を考へて見て、神から離れた暗黒の状態、これに對する神の心を痛め給ふこと救はれた時の神の喜などを思ひ、又總領息子の如き精神が僅かでも私共の心の中に在るならば直に之を取去るべきを感ずるのである。私共は常に人と共に天の神の手に抱かれ其の喜を眞に心に感じて居るやうにしたいものである。

シカゴに於ける幼年裁判

マクドナルド

私は昨年故國カナダに歸つて居りました間に、カナダに於ける社會救濟事業又は其の方法等について研究を致しました。日本に於ても近頃は以前とはずつと變つてまゐりまして、此の社會問題に就て考へる人が多くなりましたが、貧民救助、病人保護、孤兒救育、免囚保護など、其の種類も多くも從てこれ

に對する意見も亦頗る多いので御座います。

以前のことを考へて見ますと、下層階級の貧民社會のものになると、貧民自身が貧乏に生活し貧乏に死んでも仕方がない、それが自分等の運命であるやうに觀念し、之れを救助する側の人達でも、五錢十錢を惠む位で充分の事をしたやうに考へて居たのであります。しかし私共は社會救濟の問題を解決するには決して表面を見たゞけでは本當の所は分りませんのみならずそれでは到底救治の目的を達することも出來ないと思ひます。例へば貧乏の原因は何ですか、何故に貧乏を運命とするやうな境遇にまで沈淪するに至つたかといふやうな裏面に隱れた所まで十分に探究せねばならぬ必要があるので御座ます。又犯罪人などに就ても同じことであります。唯表面に現はれた所を見て犯罪者の處罰をするといふに止めないで、進んで先づ犯罪者が罪を犯すに至る原因又は徑路を調査研究し、そして其の根本から救治することに努力すべき筈であります。

私は歸國中シカゴへ參りまして不良少年少女の留置所と幼年裁判所を見ました。其の監督者と共に幾時間かを過しまして、其の實況を視察し又説明を聞いたのでありましたが、これ等の事業は實に社會救濟の一方法としては尤も適切であり且有功であらうと思はれたので御座います。今少しく私の見聞した所についてお話して見たいと思ひます。

此の留置所は少年少女か何か惡事を行ひましたものを留置する所でありまして、何處でも惡事を行つた少年少女があれば直に此の留置所に同伴して此處に留め置いて、それから幼年裁判所の裁判に附するのであります。この留置所に收容する精神は不良少年少女を嚴罰するといふのでなく、多くの兩親は其の年若の子供を不注意にし其の教育を等閑にし無頓着の結果、其の子供は幼若の時代よりして惡事に慣れ漸次生長しては誘惑に陷り罪を犯して國家社會の厄介者になるのでありますから、根本的にこれを救治したい考から此の制度を建てたのであります。

そして或る不良少年なり不良少女なりを見付けると直にこの留置所に連れて參りまして、監督者か其の子供と共に居る間には自然其の惡るいことをした理由や動機なども分つて參ります。それから幼年裁判が終結するまで此處に留めて置きます。裁判が終ればそれ〳〵其の處分の申渡がありますから、其の申渡し通りに處置をするやうになるので御座います州によつて違ひますが、このシカゴの留置所では年齡は七歳から十八歳までの少年少女を收容することになつて居ります。

先づ不良兒童を連れて參りますと、第一に身體檢査を致しまして病氣の有無や身體の發育の良否などを調べます。次に心理專問家によつて心理狀態を調べます。其の中には惱力の足りない子供や智力の乏しいもの、思慮の缺けたもの、呆痴なども少なからずあるので御座います。此等の取調を終つてから其の惡行犯罪の事實調書を身體檢査心理試驗の調書と共に幼年裁判所に送ります。そして幼年裁判の判事はよく之を調査考究し尚本人を直接に取調べて後に或は感化院に入れるとか、監視處分に附するとか相當の處分を申渡すのであります。

この幼年裁判所といふのは今より十七年前即ち一千八百九十九年に創設されたのでありますが、この法廷では普通の裁判所の法廷のやうに嚴めしい正服の裁判官もなければ、法規一點張りで威しつけるやうな恐しい所でもありません。唯懇切に其の根本的に彼等の惡性を矯め直すといふ主意で致すのでありますから、名稱は裁判でありましても少しも普通に考へられるやうな裁判の風は見ることが出來ないので御座います。私が參りました時には恰度四人の子供が裁判を受けて居る所で御座いましたが、小さな一室の中央にテーブルが置かれ正面に判事が着席して其の子供と差向になつて居ましたがそして今しも一人の子供を側によんで柔和な態度で手を子供の肩にかけて、父が其の子を諭すやうな具合に訊問して居りました。

そして裁判した後はどうなるかといふと、勿論大人の囚人とは全く引離して置きますし、又大人の囚人のやうな取扱をするのでもありませんが、情狀によつては感化院に入れるものもあります、けれども各個の性質や境遇に應じ、一人々々に注意して感化遷善の道を圖つて善良なる市民に作り上げたいといふ精神でありますから、出來る丈け普通の社會から引離さないやうにして監視處分に附するものが多いのであります。即ち其の子供の平素の行動、家庭に於ける模樣、學校に於ける動作など、すべてに注意監視するのであります。例へば學校へ行く子供ならば通信簿のやうなものを備へて其の成績や操行などを毎日學校から記入してもらつて、それを裁判所へ持參して判事の檢閲を受けるといふやうなことを致します。又監視の役人があつて常に巡回監視して其の行動に氣をつけます。大抵不良兒を出す家庭や一般の下級社會などの家庭は罪惡の伏在して居る場所である事が多いのであつて、幼若の男女を放置して置く時は自然惡感化を受けて墮落する外はないのでありますから、其の不良兒に監視を附することは其の不良兒其のものに監視を附すると同時に、更に其の父母乃至家庭にも監視を附する意味合ともなるのであります。それから又この不良兒監視は裁判に依て其の父母或は保護者に對しても特別に責任を負はせます。これは兩親又は保護者が其の子供に對する重き責任義務あることを思ふて、其の子供を監督し其の子供の行動に注意するやうに、其の兩親又は保護者を誘導せんためで御座います。父母や保護者が其の子供の行動を監視し萬事に注意するやうになれば幼年犯罪者の數を減ずるは疑ひないことでありまして、幼年犯罪者の多數は父母には保護者に於て其の惡い行を知らず、惡い行を爲すを見ても平氣で一向訓誡などせないことから始まつて居るので御座いますから、父母より保護者に監督注意の責任を負はしむることは、幼年裁判の目的を達する一の手段となるに相違ないので御座います。

斯る目的を遂行する任務ある監視の役人は實に責任の重いものでありますが、これは多くは婦人が其の任に當つて居ります。それは男子の役人ならば不良兒を取扱ふ時分に不良少年ならばよいとしても不良少女になると、どうも都合がわるいことが多いのでありますが、婦人の役人ならば男女の不良兒共によく取扱ふことが出來るからであります。其の監視人は別に監視人としての制服を着けず普通の衣服を着けて居ますが、只何等かの場合に其の權利あることを表示するために衿の裏に記章をつけて居ます。普通の知人や友人が其の家を訪問すると同じ調子で、監視すべき不良兒の家庭を訪問します。また或時は彼等に善良なる友人を紹介し又善良なる境遇に導かんために、彼等を教會とか青年會とか、そんな所へ誘引いたします。

此の事業は多くの人々に興味を以て研究されて、チエーン、アダムスの如きは其の土臺を建てるために多大の運動をした婦人であります。日本に於ても此幼年裁判所を設けたいといふ話も出たさうで御座いました。政府では目下此の事に就て調査をして居ると聞きました。どうか私は此の働が此の國にも起つて、完全な設備が出來るやうに祈つて居ります。この事業は他の免囚保護とか貧民救助とかいふやうな働とは違ひまして、實に犯罪の根を絶つ仕方で根本的に社會の改善を考へるものゝ決して等閑に附すべからざる大切な問題であると信じて居ります。

二方面の調和

鈴木三郎

凡て物といふ物は見方により違ふ。見る目により趣を異にする。富士山は一所に聳えて居るが甲州方

面から見た時と駿州方面から見た時と又三州方面から見た時とでは皆其趣が變つて居る。場所のみならず時節によつても春と夏と秋と冬では其樣子に各異つた眺がある。一本の木でも表裏があつて、見方によつては深い森の中に迷ふた時などには、その木膚で東西南北を判別する事が出來るといふことである。一本の木に於てすらさうであるが人間に就てもさうである。知識の淺い人、情の强い人、親切な人正直な人、或は不親切な人、不人情な人など種々の人があるが、此等は之を見る人の異なつた見方の相違に外ならないのであつて、凡て物なり人なりに方面あり外側があるのではない。一枚の油繪を見るにも其着色、景色、着想、陰影等があつて、その一部分丈けをとつてはあゝ善い繪とはいはれない。其等全體から見て其の調和があるによつて一つの完全な繪となる、人間に於ても知情意が相合し相調和して始めて一人の人となるのである。

神の觀察に就ても時と所により違ふ。或時代には神は如何なる惡をも救ひ給ふ神と高く見積つた時もある。又神は一點でも惡を見れば矯める正義の神と見た時もある。又近來になつては神は力であるといふ方面に根强くせられて來た。キリストに就ても我等が深き悲しみ、寂しみの內に偉大なる慰さめと力を與へ給ふ事を强く感ずるのである。然しかやうに一部のみを取り判斷しては物なり人なりの眞の價値を見出す事は不可能である。三人の盲人が象を判ずるに、一人は足を擦り象を樽の如きものといひ、又一人は耳を擦りぶら〳〵下つた大きな木の葉の如きものといひ、三人目の者は鼻を擦つて象は細長きものといつたといふ話があるが、我々の信仰生活に於ても若し一方にのみ傾むいて調和しなければ完全な發達は遂げられない。私は玆に二方面の調和の必要を認めるのである。然らば其の二方面とは如何なる物かといへば一は自己中心の信仰生活、二は社會的方面の宗教生活である。前者の生活は自分を淸めねばならぬ己れの救を基とした尊い信仰であつて、

中世紀中には修道院生活をした人がヨーロッパに多くあつた。フローレンスの呉服商フランシスコは二十三才にて新らしき信仰生涯に入り、ボルランウインクラの修道院を起し名を立てゝ一生を終えた。アウガスチンは此世を果敢んだが、聖書を繙きポーロの傳道書によりて甦がへらされ辛苦を嘗めた後、彼自身の信仰を建つるに至つた。使徒行傳中にポーロとシラスがマケドニヤに於て獄舎に投せられたが、獄吏の叫に「君よ我救はれん爲に何をなすべき乎」といつたことが書いてあるが、これ自己中心の信仰で眞に己れの心中より己れの救を求めたのである。基督敎信者の中には信仰が自己の信仰になつて居らぬものがある。即ち己れの信仰と自分の魂とが觸れ合はぬ處がある。若しそのやうに信仰が自己のものでなければ其の信仰は其人の生命となつて居らない。我が宗敎自己の信仰で、自身から涙を以て得た信仰でなければ其人に何等の價値がない。ポーロは「我之れを人より受けず亦敎へられず唯イエスキリストの默示に由て受たれば也」といつたが、かゝる信仰こそ其人に力を與へたのである。エスと己れの靈が互に通ひ合ふにより溫かき血が湧き、大いなる力が溢るゝので、かく此所に土臺を据えねば眞の自己中心生活は求められない。第二の社會的方面とは何であらうか。人に宗敎の如何なるものかを問ふならば、それは社會改良とか、道德の振興とか、或は國利民福の手段とか色々に答ふるものが大部分であらうと思ふ。かく今日の宗敎は道德、倫理、風俗改良の道具に使用されつゝある。基督敎は社會改良の燈灯持でない、道德の玄關番でない。我々の信仰生活が倫理を語り、道德を論じて此樣な色取りのものもするならば實に寒心に堪えぬ。實に社會改良も道德の振興も國利民福も我が信仰が生む花であり實であるに相違ないが、しかし信仰は其の爲の道具ではない。まづ自己が救はれて後、之を他人にも分ちたい。分たねば神の御心に背くと感じて働く、これが社會改良運動の基礎である。社會に基督敎の活動

が鈍い、教會が沈滯して居る、意氣が揚らぬといふのは眞に獲得せる自己中心の信仰がないからである。若し吾々の信仰が自己の信仰となり、醒めた自身の上に築き上げられ居るならば、期せずして恰かも噴水の自然に水を噴出する如く、泉が水を迸しらす如く、社會に對し他人に對する方面は然として發揮せられ社會に花を咲かせ實を結ばすのである。

ボーロの『若し我が兄弟我骨肉の爲ならんには或はキリストより絕れ沈淪に至らんも我願なり』といつたことを考へて見ると、その社會を思ひ世を憂ふる精神が滿然として起り、迷へる兄弟を見ては働かずには居られぬやうになる是が眞の社會的方面の信仰である。

此二つが調和せられたものは彼の救世軍なども其の一つと見ることが出來る。ブース大將は深夜に貧民の苦しみを見て、社會の救濟を思立つたのであるが、その初はやはり自己の救が力となり、社會運動を試むるに至つたので、あの事業は着々として成功を贏ち得つゝあるのである。即ち人を救はうとする努力が自己を救ふ力で、自己の救に根底を置いた信仰が眞に社會を救ひ他人を救ひ得るのである。現在のキリスト教は斯る信仰生活を握れる人を求めて止まぬ。自己の信仰に確とした根を持つて社會を救はんとする熱烈燃ゆる情を抱いて居る人を要求しつゝあるのである。我等は此の二方面を具備した信者となり地の光世の鹽たる實を表はしたいものである。

謹告

本誌は例年の通り來八月一日發行を休刊して九月號に併合し、第十一回女子夏期修養會の講演、記事、其他有益にして趣味ある內容を以て九月一日發行いたすべく候、此段讀者各位へ謹告仕候。

七月一日

女子青年界編輯係

交戰國に於ける青年會の働

未曾有の歐洲大戰亂に際して各交戰國が彈雨砲煙に包まれて居る間に在つて、各青年會は如何なる働に從事して居るかは私共の常に知らんことを欲して居た所でありますが、各國の模樣を調査したものから大要を綜合して、この一篇を揭げることに致しました。佛英露獨をはじめすべての所に通じて基督的精神を以て各其の任務を完ふせんために努力して居る各青年會又は學生同盟の働は私共に取つても大に參考になる點があらうと存じます。(記者)

(一)佛蘭西

戰爭開始以來、佛國ほど學生の苦しめる所はありますまい、身體の虛弱なものか又は年齡の足りないもので、兵役に服することの出來ない人を除いては誰でも戰地に出でないものはないのであるから、基督教學生同盟の働く仕事は、男子には唯塹壕中に在る人々の爲になることをするだけのことに限られて居る位である。故に女子學生其の他の婦人達には、目下の佛國に於ける基督教の種々の働を繼續して行かねばならぬ責任が與へられたやうである。即ち戰爭が始まると基督教青年會と學生同盟の書記等は皆戰陣に立たなければならなくなつたので、今の所學生同盟及基督教青年會の二個の團體を維持し之を繼續して行くには、速記などに從事して居た如き若い婦人達が骨を折つて、雜誌の經營などにも勉めて居るやうな次第である。そして塹壕に在る人々や其の他に對しても、あらゆる方法を以て青年會事業をやつて居ることは實に健氣といはざるを得ない。大學に居る女學生の數は戰爭前と大差はなく、佛國に戰爭開始後も依然として居殘つて居る外國女學生も少なくない。學生同盟の指導者は今は婦人の事業を發達せしむることに對する大いなる義務を感じ、又識者も婦人を基督教事業の指導者として訓錬するのは最も大切なことであるといつて居る。それで外國學生同盟及巴里市に於ける學生避難所の宗教的事業には皆佛國女子青年會の人々が働いて居り、又地方に於ける大切な働の爲にも主として働いて居るのは婦人である。

(二)白耳義

獨逸軍人が白耳義に侵入して以來、白耳義の大學は殘らず閉鎖せざるを得なくなつた。白耳義の大學はスイッツルと同じく世界的のものであつて、學生の大部分は白耳義人といふよりも他國人が多いのである。即ちロシア、ポーランド、バルガン半島、ギリシヤ、イタリー、南亞等の青年が多く遊學して居る。そして東洋人でも亦勉學して居るものがある。然るに開戰以來白耳義の學生が殆ど皆戰陣に立つことになつてから、此等の外國からの大學生も勉學を中止して白國外へ避難せねばならぬことになつた。そして大部分は和蘭と英吉利へ逃れたのである。白耳義の學生間には宗教に關しては種々の困難な事情があつて基督教の學生同盟等といふ働までに進んで居らない。しかし倫敦大學にも三百人内外の避難學生が入り込んで行つて、中にはどの大學にも附屬せないで居るものもあるが、其の人達は倫敦に於て男女學生のために設けられて居る倶樂部があつて、其處へ出入して英國學生同盟の盡す親切に對し深い感謝を有つて居るやうである。其の中の五十四人は特別な大陸學生の協議會にも出席した。そして彼等は宗教的運動につき又信仰的問題につき多大の印象を與へられて其の會を去つた。若し機會があるならば此等の學生は平和克復して歸國の時には、以前に相違した觀念を以て基督教に對するやうになるのであらうと思ふ。此の白耳義の學生中にはユダヤ人も多數ある。故に學生同盟の働に就ての二重の困難は一方に於ては基督教に反對の方面、一方に於ては基督教徒によつて迫害せられたといふために敵意を抱いて居る人々の中に働かねばならないことである。

(三)英國

英國の諸大學に於ては大陸地方よりの避難學生が入り込むことによつて學生同盟が受けつゝある事情のために起る働を除きては、英國の仕事としては戰爭より受くる直接の變化は極めて乏しいのである。しかし男子間の働の困難は以前に倍加して居る事は

確である。大學生の三分の二は今や軍隊に編入されて居る。或大學は寧ろそれ以上に達して居るかも知れない。故に各大學に勉強しつゝある學生の數は非常に減少を餘儀なくされて居る。即ち外國學生、戰爭に立たぬ婦人、極端なる平和主義者と一年生のものが殘つて居る位に過ぎない。一年生といつても二年に進級する頃には從軍する意氣込のものばかりである。そんな有樣であるから斯かる學生間の働を秩序あるものとして繼續し行くことは頗る困難である青年會の書記は一學期の內に四度も代つたといふ有樣で、大學生が代る〲從軍しつゝあるのであるから、青年會を指導する人を養成するのは、唯今の場合ては中々容易なことではない。

女子學生中の働は大抵佛蘭西と變りはない。英國の女子學生間に顯はれた、此の戰爭によれる著しき結果は、祈禱の精神の強くなつたことである。如何な女子學生も如何に祈るべきかを考へ、聯合祈禱會等には實に多くの出席者がある。一般女子青年會の働の上に此の戰爭は少なからず發展の大なる機會を齎らしたといつてよい。今其の一二を擧ぐれば、

一、英國では兵士を調練するためにキャンプの開かれた所には、其の小さい村なり町なりへ數千の人々が入り込むことになる故に、其の際其の土地の若き婦人達を導き助ける機會が澤山與へられるそれで愛國倶樂部といふやうなものが所々に立てられて市民としての高き基督教的理想が敎へられて居る。

二、兵器製造場のある所には女子青年會の働が一層著しく要求される。斯かる工場に雇入れられんために或る時は一萬人程も若い娘達が外から集つて來る。此等の娘達に適當な狀態の下に寄宿所を與へる世話をするのは中々難事であるが、女子青年會は政府よりの依賴もあつてかた〲其のために熱心に働いて居る。即ち男子のために設けられるものと同じやうに、特に青年女子のためとして＝斯る女工のために＝料理店、休養所、倶樂部等

を開設して居る。

三、女子青年會は戰爭開始以來、外國人たる少女婦女子のために有効な働をして居る。即ち婦人參政會と共同して、獨逸及墺太利の女子を助け、其の人々が自國へ歸るに必要な金錢又は物品を給與し補助を與へ、其の他の便宜も圖るのである。又女子青年會は伯林の婦人に對しても、よい仕事をして居る。又白耳義の避難者の居る本部ともいふべき所にも、倶樂部を開いて宗教上に社交上に力を盡して白耳義婦人のために骨折つて居る。

(四)獨逸

戰爭開始以來、學生同盟の狀態が變化したのは獨逸ほど激しい所はあるまい。戰爭以前には學生同盟は甚だ貧弱で、其の範圍も極めて狹隘な組織であつたのが、一朝戰爭が宣布されると、伯林に於ける學生同盟の本部から目立つて多くの事業が開始された獨逸大學は佛國ほどには人數が減じないけれども、學生の働は目下は重に塹壕内に行はれて居る。又此の同盟の機關雜誌も戰地に送られて大勢の人々に讀まれて居る。此の同盟は四月に一度書物を出版して道德宗教問題に就ての議論を集めたものを廣く戰地の兵士に配布した。政府も金錢を以てこれ等の事業を助けて居る。そして數月間に學生同盟の新加入者として八百名のものが、其の塹壕の中から本部に向つて入會を申込むだのである。外の國ならば基督教青年會のなすべき軍人間の仕事を獨逸では學生同盟の人々がやつて居る。又獨逸での學生同盟の非常に立派な働ともいふべきものは、獨逸國の各所に收容されて居る各敵國軍人、即ち捕虜の間に基督教事業をなすことである。無論これは一般の獨逸國民からは少しも同情を受けることが出來ない事業で、それは萬々承知の事であるが、しかも米國から渡來した青年會書記等の助を借りて、これを實行しつゝあることは喜ぶべくまた感ずべき事である。

女子學生同盟も戰爭が始まつたからといつて、其の仕事を中止することなく、却て此の仕事のために

資金を得ることが以前よりも容易くなり、會員も益增加して行く傾向がある。又近頃は或る書物を出版して獨逸國內の女子大學生の各に贈つて居るが、此は此の運動に興味を有せない人達に此の事業を知らしむる媒介となるのである。

(五)墺太利

此の國の學生同盟は戰爭前は極めて規模の小さいものであつた。其の書記を務めて居た人はスイッツル人であつた。獨逸と同じく目下の働は塹壕內に居る軍人に對する働が重なるものである。獨逸語とポーランド語で雜誌を發行して戰地へ送ることもして居る。大學に殘つて居る學生間には聖書の組が組織され、殊にポーランド人の學生間に働をして居る婦人がある。其の仕事は基督教の雜誌小冊子及聖書などを配布することであつて、戰地から來る手紙は此の學生同盟から雜誌又は聖書を贈つたに對する感謝状が甚だ多いさうである。

(六)ハンガリー

ハンガリーの學生同盟は墺太利の學生同盟よりも以上に盛なものであつた。そして戰爭開始以來プロテスタイント及舊教徒の間に大なる宗教復興があつたやうに見える。それで宗教的集會には戰爭前よりも多くの人々が集り、又聖書に對する要求も增して來た。ハンガリーの大學生も矢張り昨年以來戰爭に出たものが多いけれども、ブタペストに於ける學生間には今でも二十六組の聖書の組が開かれて居る。

(七)伊太利

伊太利では、戰爭に參加して以來、學生間の働は實際一頓挫を來した。學生同盟の書記であつた人々も今は戰地を馳せめぐる人とならなければならない。しかし伊太利の學生間には宗教に對する興味が深くせられた傾向が見える。戰地に於ける伊太利人の爲に聖書を配布する計畫が出來て居る。女子學生の間にも以前の通り其の働を續けては居るが、目下伊太利は財政困難で物價騰貴し、宗教的社會的の方面に金錢の寄附を得ることは非常に困難になつて

居る。

（八）露西亞

露國にては大學生は他の交戰國に比して近頃まで甚だしき影響を蒙らなかつた。それは露西亞では大學生は在學中は軍隊の勤務に召集されることを得ずといふの法律がある爲めであつた。しかし近來改正されたといふことである。男女に拘らず大學生は皆病院に於て又は其他の救濟事業に關係して勵んで働いて居る。露國の學生內に於て出征に對する思想は「犧牲を出す爲に應召する」といふのである。故に戰場に行くも病院に働くも、同じく自分は敵を殺すために行くのでなくて自分自身を犧牲にするために行くのであると考へて居る。基督信者として、又トルストイの弟子として武器を取ることを罪と感じて居る非戰爭論者でも法律の名によつて召集を受けた場合に、「戰地に行くのは主義に反して居るのに何故行くか」と尋ねられるならば、直に「人を殺すことは自分に取つて罪である、しかし若し殺されるにしても自分が戰場に立たないなら、自分の代りに他の人が行かねばならぬ。自分は其の人に罪を犯させるに忍びないから、寧ろ其の人に代つて自分が犧牲になる」と答へるのである。そして極端な非戰論者には無理に戰陣に立たせることはしないで、輜重兵とか或は傷病兵のための任務を執らせるとかいふことにしてある。

女子學生の献身的精神に於ても亦決して男學生に劣る處はない。元より露國の女學生は豊富でない。しかもペトログラードの女學生等は大いに困難の中にも苦心して資金を募集し、貧しき學生の爲めに善良なる飲食店を開いて居る。そして戰爭開始と共に其の飲食店を陸海軍人の孤兒のために開放し、今ではそれ等の子供の世話もして居る。

露國に於ても他國と同じやうに、戰爭開始以來は基督のために働くといふ熱心が學生間に大に增して來たことは明かな事實である。概していへば露國の學生間には個人的に宗教問題に就て其の話をするこ

とは容易な方であつたが、開戰以來それが一層なし易くなつた。「自分は如何にして耶蘇基督と個人的關係を保つことが出來るか」といふやうな問題は開戰以來殊に著しく露國學生の胸中に往來する問題となつて、露國に旅行した外國の宗教家學者連が屢質問を受け又繰返された所のものである。そして是迄のやうに宗教又は哲學上の問題として議論的に考究する風は何時しか失はれて、今では實際的に考究せられつゝある風である。

目下露國では大集會を開くことは禁じられて居るが、しかし青年會館で其の會員のために開く集會は許可されて居る。そして集會毎に立錐の餘地もないといふ程の出席者がある。昨年の冬モスコーに於ける集會は、會館が狹くていつも往來に迄も立塞がるといふ有樣であつた。此のやうな手廣い集會は今は遠慮せなければならない事情があるが、却て他に強く深く働きをなすことが出來て、其の結果は更に甚だ大いなるものがあらうと思はれる。

(九)セルビア

セルビア國に於ては今日なほ學生同盟の事業を繼續することは到底望み得られることでない。しかし最近セルビアが敵兵の侵入を受ける迄は決して其の働は中止せられずに續けられて來た。首府がベルグラードからニッシに遷つた時にも、新しい都に於て日曜日毎に學生の集會が開かれ、萬國學生祈禱日もニッシで守られ、大會堂で萬國同盟會の說敎があつた。けれども敵軍の侵犯を受けた此の國とはそれ以來青年會の消息を交換する手蔓がなくなつた。

(十)ブルガリヤ

大正三年十一月以來英國婦人ミス、サンダースがブルガリヤに働いて居て。三十名を入れることが出來る寄宿舍を開き女子學生のために大なる利便を與へて居たのであるが、同國が戰爭に參加して以來、同婦人が寄宿舍を閉鎖してブルガリヤを退去せねばならないやうになつたので、ブルガリヤに於ける女子青年會の報知は何にも得られなくなつて居る。

筆のまに〳〵

松宮生

衣食住の改良

▲今日、私共の間に最も急に改良を要するものがあるとすれば、差當り衣食住の問題は其の最急を要するものの一つであらう。所が今日の衣食住問題に就て論ずるものが、とかく「成るべく節儉にして……」「成るべく安價に……」といふやうな、頗る消極的で手元や足元ばかりを見て考へて居るに過ぎないのは實に殘念なことゝといはねばならぬ。何事によらず、消極的に萬事控目とすることは、改良手段の半面であるか知れないが、決して改良發達の最善方法ではないことは明である。

▲勿論、贅澤虚榮の生活のために無益の浪費を節約して、成るべく安價の生活をするやうに改善の道を立てることは、大切中の大切なことに相違ないとしても、若し或る必要な場合には、其の必要に應じては進んで積極的方法を採るべく、爲めに高價も亦辭せざるの覺悟と度胸がなくては、到底根本的に其の解決を與へることはむづかしい。

▲又衣食住の改良には活動的であり且實用的であることを基礎として考へなければならぬ。如何に改良々々と叫ばれ、又考案されても、それが活動的でなく、又實用的でないならば、其の目的が達せられたとは言はれない。そして活動的と實用的とは一致する場合が必ず多い。私は屢外見とか體裁とかいふことを耳にするが、これも一應は考の中に置く筈のことであらうけれども、活動的又は實用的の方面と此の外見や體裁の方面は一致しない場合が少なくないと思ふが故に、若し活動的と實用的を離れて只だ外見や體裁にのみ考慮を煩はすことが多いとすれば、蓋し當を得たものとは思はれない。即ち先づ考慮すべきは活動的であり、實用的である方面で、外見とか體裁とかは第二に來る問題として考るのが順序で

あらうと信ずるのである。

▲如上の見地から衣食住問題を見たときは如何てあらうか。例へば我國の衣服は體裁や外見に於ては中々優美であるとか、上品であるとかいふ人もあるが(私は決して然か思ふことが出來ないけれども)實用と活動の方面から考へて見ると、其の形式に於て既にさうであるか、特に其の地質などからいへば、當に失望せざるを得ないのである。かう考へて來ると我國の衣服の改良は表面や外見の改良ではなくて、根本からの改良が必要でなくてはならぬと思はれる即ち縞柄や仕立方といふのが日本衣服の改良の眼目ではなくて、衣服其のものゝ基礎ともいふべき地質或は織方からして撰擇改善して掛らねばならぬといふことになる。

▲此頃聞く所によると衣服改良などと大旆を押立て居る連中が、偖如何に改良するのかといへば、一反の織物から羽織と着物を造り得る方法を案出したといつて得意てあるといふことである。或は長い袖を切りて前掛の一つも餘計に取れば經濟的であると論ずるのもある。何と飯事じみた改良策ではないか。物好きでなければ遊戯に類した改良である。幾度こんなことを繰り返して見ても、議論は盛になるかも知れないが、改良の實を擧げることは前途尙ほ遠しといはねばならぬ。

▲私共の希望を有體に言へば、もう一歩離れた所、もの一歩深い所に着目してもらいたいものである。即ち車にでも乘らなければ直に裾が切れるといふやうな弱い地質の衣服を改良して、朝に夕に大道を濶歩しても容易に切れないやうな丈夫な地質の衣服を案出してほしい。又綿を入れ二枚も三枚も襲ねなければ寒を凌ぐことが出來ないやうな衣服を改良して極めて薄くて而して極めて暖かい衣服を造つてもらひたい。又歩るくに足に纒りつくやうな衣服を改良して輕快にさつさと大股にあるけるやうなものにしてほしい。又洗濯や手入のために主婦が一年の半分を費さねばならないやうな時間からも費用からも不

經濟な衣服を改良して、もつと輕便にして手數のかゝらないものにしてもらひたい。

▲斯くの如き問題は外見なり體裁なり仕立方なりの考究よりも先づ考究すべき問題である。これは衣服改良の根本的に置かねばならぬ問題である。若し我々が將來の活動場裡に立つて活動するに應しき活動的にして實用的の衣服に想到する時は、どうしても如上の點を閑却し去ることは出來ない。しかも第一着に斯る問題に向つて解決を與へることが出來るならば一時は多少の高價を拂はねばならないかも知れないけれども、蓋は改良の資本であつて、其の改良を完ふし得た曉には却て將來の利便と實益の價を差引して尙ほ餘りあるであらうと思ふ。

▲衣服の外、食物にしても住居にしても今一々いふことが出來ないけれども、一貫した道理は同じことである。すべて其の改善すべき根本の問題に向つて解決を與へてもらひたい。唯表部のこと、眼前のことにのみ改良を策しても、それは源を淸めずして流の淸からんことを望むの類に終るであらう。敢て識者の三思を促したい。

奥樣の鑒識力

▲ある魚屋の小僧の話に「山の手の方の年若な奥樣の家へ行くと鮪の刺身と鰹魚の刺身と、又鯛の刺身と平目の刺身とを見ける奥樣は誠に少ない、故に鮪や鯛で註文を取つても、時と場合で平目や鰹魚で代用させても無斷で居れば決してお叱りを受けるやうなことはない、のみならず却てあの刺身は大層新しくておいしかつたよと、平目が鯛で通り鰹魚が鮪で通つた上になほお褒めに與ることとさへある云々といふことであつた。私はこの話を聞て思ひ出すもう一つの話がある。それは或女學校出の若夫人が生物知りに御用聞きなどから買物をするのは不經濟であるからすべてのこと買物でも何でも自分自身でするに限ると極め込んで、或晩下女を連れて夜店へ出かけて瓜や大根など野菜物を一脊負ひ買つて來た。まあ

御用聞きから取れば五六十錢もすると思はれる程の量で僅に三十五錢とは何と安いにも程がある、實に安いものと大分得意に見えた。所が翌朝になつて見ると前夜とは打つて變り、前夜は水など打つてあつて、夜目には如何にも上等品と見えたのが、全くは日増物で殆ど實用には足りない。却て價は多少高くても御用聞きから取る方が安全であると考へ直したといふことであつた。『安物買の錢失ひ』とは實に此の事である。私はこのやうな話を聞く毎に、どうも聞捨てにならない事柄と思ふ。そして直ぐに感ずることは現今の年若の主婦には鑑識力が缺けて居るといふことと、同時に鑑識力がなければ家政は持てないといふことである。

▲今の女學校出の主婦連には、今述べたやうな人は中々多からうと思はれる。理窟や講釋は達者であるが實際に臨んで實物に對して之を鑑識するとか、之を見分けるとか、之を處置するとかになると頗る其の力が不充分である。これでは到底一家の經濟を引廻はし活計の基礎を立てゝ行くことは困難たるを免がれられまい。此頃或方面から小賣商の暴利を貪ることを憎んで安價廉賣の購買組合のやうなものを組織するがいゝといふやうなことを耳にする。結構なことである。しかし家政の中心たる主婦が今少し確乎した生活上の智識が豊富になつて能く目も利き見分けも出來るやうにならないと、よし購買組合などが出來ても、それは第二の小賣商となつてしまふであらうと思ふ。

▲それにつけて私の最も遺憾に感ずるのは、今日の女子教育なるものが、餘りに實際とかけ離れて居るからであると思ふ。四年なり五年なり學校で教授せられたことは、西洋流の直譯教授や机の上の帳面教授が多くて、愈家庭に入つて實際に應用せんとして見ても役に立つものは極めて少ない。今日の青年女子が注入される家政的智識は極めて貧弱なる其の上に日本現在の狀態や程度も斟酌しないで、向きに構はず注入さるゝに過ぎない。實に徹底しない教

育振りである。其の實用に際して効果を收むる能はざるはもとより其の處である。今日女子教育當事者は宜しく此の點に多大の反省を拂つてもらひたい。況んや賢妻を養成せんとするが女子教育の眼目たる如くに思惟せる今日の教育者は尙更にこの點を等閑にすべき筈でないと信ずる。

第十一回夏期修養會御出席の方々へ

本年横濱に開かるゝ第十一回夏期修養會へ御出席の方々は例年の通り「修養會所感」を御寄稿下され度。成るべく九月號（修養會記念號）誌上に掲げたいと存じますから、八月十五日迄に着するやう御願ひ申上ます。

▲宛所（東京市神田區北神保町十四本會本部又御都合にて信州輕井澤舊道五十番松宮彌平宛にてもよろしく候）

女子青年會本部
編輯係

爾曹は世の光なり

富山國枝

聖書にある「爾曹は世の光なり」といふ言葉は誠に意味の深い教訓であると思ひます。此の世に在る光といへば先づ太陽で御座いまして、月や星でも又は暗い時に立派に見える光でも、太陽に比べますならば啻に其の光を失ふばかりでなく、實にくらべ物にはならないのであります。

太陽や月星の外にも種々の光があります。昔は行燈のやうなもの又は蠟燭のやうなものを點しましたが段々と西洋文明が入つてからランプを使ふやうになり、又近頃では盛に瓦斯燈電燈を使ふやうになりました。かういふものを比較しますと、丁度神の國の國民である信者各々に違つた位地や境遇に在るのと同じであるやうに思はれるので御座います。

太陽は即ちキリストで御座います。そして其の外の光はいろ〳〵でありまして、大きなのもあり小さ

なのもあり、又非常に立派なものもあり粗末なものもありますことは尙ほ教會の人々の中に各種の人々があるのと同じで御座います。例へば古來教會の中にはポーロやルーテルやウエスレーや新島のやうな人がありましたのは、太陽についで輝ける月や星のやうでそしてそれよりも下つて瓦斯やランプや蠟燭に相當するものも、澤山あるのであります。

そこで私の感じますことは、どんな大きな光でもどんな小さな光でも、それ〴〵適當な働と役目をもつて居ることで御座います。如何に立派な月や星でも、或る場合には提灯程の役にも立ちません。如何に小さい光でも、或る場合には大きな光よりも調法であります。それを考へて見ると小さければ小さいなりに、又大きければ大きいなりに、各それ〴〵の天職があるので御座います。

私共お互に神の國の國民としても、矢張りそれと同じ事であります。即ち私共は一概にルーテルやポーロのやうな人には成れませんでも小さい光は小さい光として天職がありますやうに、私共には私共相當の任務を神は授けて御出になります。

故に光としての特質は何であるかといへば、其光を少しも減ずることなくして輝くに在りますやうに私共信者も亦其の位地や境遇によつて是非せられることなく、大は大なりに小は小なりに各全力を盡して信者としての價値をあらはし、其の特權を發揮いたしますならば、それによつて世の光となることが出來るのであると思ひます。故に私共は如何なる境遇や位地に在りましても決して失望することはありません。唯眞面目に忠實に信者たる本分を盡すとが世の光たる所以であらうと思ふので御座います。

或る日の感想

一　會員

我々は人それ自身の存在を尊重したい。神から許されて居る貴い人そのものを一箇人の都合便利のために利用しやうと考へる事は大なる罪であると思ふ。我々は人の意志をどこまでも尊重しなければならない。神樣さへ我々の心に自由を與へ給ふて我々

を愛し給ふ時、我々が其の御心にそむいて邪道に行く時に、之を正しき道にかへさんとなし給ふ際、決して我々の心に亂入し給はない。默示錄にもある樣に『我戶の外に立ちて叩くもし我聲を聞きて戶を開くものあらば我その人の所に就ん』と。あゝ何と云ふ恐れ多い事であらう。絕對の權利を有する神樣さへ我々の精神を尊重し給ふのである。しかるに我々が其友人や後輩に對する態度はこれ程迄に人格を尊重してゐるであらうか。たとひ親切な心から出た行爲であつても、相手が之れに對して拒む場合には、先方の精神そのものにある深さ貴さを考へてやらなければならない。ことに人の上に立つて居る人々はこれを餘程氣をつけないと、親切のつもりでかへつて思はぬ所に人を害し其發達を妨げる事がある。人は利用すべき道具ではない。またも一つ考へねばならぬ事は人々には、とても外からわからぬ深い所がある事を思ふ事である。日頃交際して居る友なり又敎へて居る生徒なりがあらはしてをる人格そのものそれは單にその人の皮相にすぎない各々にはとても考へ及ばぬ程の深い貴い或るものを神から授けられて居ると思ふ。而してこれはなか〲顯し得るものではない。またかゝるものを誰にも人を選ばずに語り得るものでもない。もしこゝに一人の人がその深き我を顯し得る對象が神樣より以外にあるとするならば、その對象となつた人物は自己をかたらんとする人の全人格を捧げて崇拜し得る人物に違いない。然したとひ敎師であらうが先輩であらうが其後進のものに對して、いつもこの對象の位置に居ると考へるのは大きな間違ひである。人によつては自分の生活の方便のために無雜作に自己そのものを何處へでも云ひあらはす人もある。而し我々が少し精神的に深い生活をするならば單なる方便のために自分そのものをあらはすと云ふ事はいつも出來る筈のものではない。我々には個人々々が異つた境遇に於いて各々の理想なり使命なりをもつて居る。それで我々が人に就いて考へる時に誰にも其人自身の深い貴いも

のがある事を忘れてはならない。自分を尺度として人を律すると云ふ事は有り勝ちな事である。けれ共これは大きな罪であると思ふ。誰もが自分に對して其人の全人格を捧げて來て居ると考へ、又かくあるべきであるとするのはあやまつて居る。我々が時に熱心のあまりによく人を强ふる樣になる事があるのは氣をつけねばならぬ。傳道と云ふ事に於てもどこまでも相手の人格を尊重してかゝらねばならぬと思ふ。

二つの所感

坂本花代

神樣よりの尊き力

人は案外弱い者、先日も或る先生が感情にはしり主義節操を捨てた一青年を評して「弱き者よ汝の名は人なり」と仰せられました。

弱き人間なる私は神樣のプログラムを知らないで日々出會ふことに喜こんだり悲しんだりして神樣の御目から御覧遊ばすとさぞ不憫に思召すでせう、神樣は世に四季を與へ給ひ冬枯れし草木は春芽が出てこの頃人間は暑い〳〵と困つて居る時樹木は青々と生き〳〵として居ります。先日も流しに青い葉を切られ白根許り殘された一束の葱、マアー可哀相にと思ひ翌朝見ると青い葉が二三分覗いて居りました、どうなるかと毎朝氣を付けて居りますと四五日の間に元の通りの青々とした立派な葱になり前より葉が柔かくずつと旨しい物になりました。名もない此植物に神樣は生の力を御與へになるのですから神樣に最も近く造られ神の子と呼ばるゝ私共にも偉い生の力を御與へ下さるのは當然のことです、私共は喜んでこの恵みを受けなければなりません、葱が葉を切られた樣に私共の肉の上に靈の上に人生を辿り行く間には致命的大打擊を受ける事があるでせう。此時私共は神樣に縋り神樣より偉大なる御助を受け亡び行く者とならず又立つて勇進なし得る者になりたい

と流しの隅のお葱から深い尊い敎を學びました。

苺の床

久し振りに家に歸り好きな、いちごの床を訪ひますと當夏は世話してくれます爺が居らないので新しい爺も下女も心付かずいちごは實つたまゝで葉も何も敷いてありませんでした。大きく赤くおいし相に熟したのもありましたが三分の一位はおいし相な赤い頭を垂れながらも直接熱い土地にくつゝいたので腐れかけて居りました。

此おいしい可愛らしいいちごの樣に世の中に生れて來た子供も若し育てる親や導く先生がなかつたらたとひ身體は延々と生長するとも魂は腐れて行く事でせう、人々は目前の事には氣が付きますが案外魂の事には心付かぬもので知らず〱の間に自分の努力の足らぬ爲又優しい導き手のない爲め多くの魂は亡びて行くのです、先に選ばれし私共は只自分だけ清い熱烈な信仰を持つて進めばよいと滿足しないで神の召し給ふところ何處にても神の御業愛の御業を勵みたいと切に感じました。

花の籠

白百合

煖室の棚の下に小さな堅い茶色の百合の球根が轉がつて居ました。其根はいつも獨りでぶつ〱怒つて居ます。「あゝ無情、私は汚い茶色をして室も座つて居る床も茶色、全世界が茶色なんですもの、」といふのでした。或日此根は棚の上へあげられて奇麗な花達と一緒に煖かな日當りのよい所に置かれました。直ぐ隣りに丈の高い薔薇が眞赤な着物をきて香水の薰をぷん〱させながら座つて居るのを見た時には一層羨やましくなつて自分がいやになりました。夕方お孃さんやお坊ちやんが煖室の花を見にいらした時薔薇の花の間から此根を見付け出し二人は植木鉢をかついで來て復活祭頃に花が咲くやうにと植えられました。百合の根は土を被せられて又世界は茶色になり不滿なくなつたのでうと〱と眠つてしまひました。可成程經てから、

根は目を醒ましによき〳〵と手を延ばすと小さな青い芽が吹き出ました。此度は日光や奇麗な花が澤山見えるので心中新らしい希望が心にみちて莖が段々延びて來ました。お孃さんもお坊ちやんも喜んで水をやつたり、眞直な姿勢になるやうにと支柱を立てたりして可愛がりました。

　時の立つに從つて百合は大きくなり遂に細長い葉を出しました、けれども薔薇の葉のやうでないので少し失望してがつかりして居ました、すると翌日一つ蕾が出ました、けれども此度こそはあのやうに赤い美くしいのをと思つて居たとは反對で眞青な細い蕾でした。百合はます〳〵失望しました「あゝ私は葉も花も青い、此度は茶色でなくて青い世界ですよ何時薔薇のやうに奇麗になるのでせう、皆樣があんなによく世話をして下さるから御恩返へしにせめて蕾でも奇麗になつて人樣を悦ばしてあげたいものと思つたのに、よしそれなら此度はよい香を出して見せませう」と力んで居りました。

　翌朝日光が一番大きな青い蕾の戸を叩きに來ましたので百合は歡迎心でぱつと開きました。その立派な樣子！　大きな花瓣を擴げて教會の鐘のやうな形をして現れて來ました。而も其眞中は太陽の光線のやうに金色をして居て何處からとはなしに實によい香を放ちました、これが一番最初の花でした、かやうにして幾つも〳〵咲きますので或日溫室から出されて會堂へ運ばれました。其處は眞黒でまるで地面の下に居るやうな氣がしましたが、百合は前から少し忍耐といふ事を覺えて居たので今にきつと何かお役に立つのかしらと忍へて居ました。

　翌朝になると日光は色硝子を通して樣々の色に映つて來ました又會堂には赤薔薇や黃色、赤色のチユーリツプや、水仙、雛菊等數知れぬ程奇麗な花が一ぱい並んで居りました。其中で一番祭壇の近くに畏まつて居るのは此白百合でありました。そしてお孃さんやお坊ちやんが可愛い口で「エス樣は甦り給ひし」と歌ふと、百合も今日此晴の場所で天に上げら

れたやうな心持でした。
禮拜が濟んで一番先に此百合は或病院へ送られました。はいるや否や跛者の子供は百合を眺めて『あゝ此百合は眞直に足をのばして丈の高い事、何時か私もあんなに眞直に立てるやうになりたいが』と嘆きました。又一人の子供は『一寸見てもなんだか姿勢が正しくなるやうな氣がしますよ、まあ香のよい事、なんてよい香を持つて居るのでせう』と聲を湛へて讃めるのでありました。其時白百合はやさしい聲で『私はもと茶色の玉で眞黒暗の中に眠つて居た時分には、こんな白百合になつて皆樣を喜ばすとは夢にも思ひませんでした』と申せば、小供達はさもきこえたやうにぢつと眺めて居りました。皆さん私共は此白百合からどんな教訓を學ぶのでありませうか。

うた

辻村靖子

○螢

み空うつ簾におつるぬか星のきこえぬ光りは螢なりけり

きれ堤いこひて居れば席うつおと夜るきこゆこかくれの里

土くえて人は行かれぬ川淀のしげみか下にほたるとふなり

くさむらの蛇なして行く水のながれのみえて螢とぶなり

なるかみの音のとゞろと水車めぐる萱家に螢一つまふ

もゆる火をとりてつゝみて買はずやと里の少女のしのび〳〵いふ

籠を明けて放ちやりにきとぶほたる水と風とのこひしからむと

○天覽飛行機

ひと麻の垂り尾をひきてあを空の雲に戲るゝあはれ鳥の人

日曜學校教授の準備に就て（二）

吉田敏

前號誌上で申上げましたことは如何に教授上の仕度をするかに就てゞ御座いましたが、今回は進んで其の仕度した學課を如何にして小供なり青年なり大人なりに教授することが出來るかに就て申上たいと思ひます。

第一は先づ自分が其の學課に就て面白く感ずることであります。すべて教授するには教師が先づ其の學課に趣味を有ちませんならば、其の教を受ける生徒も亦面白味はないので御座います。それは牧師が說教するのでも同じことであります。如何に有識な達辯な牧師でありましても、何等其の心に觸れない話を出鱈目的に並べて居ても、それでは決して信者の心を惹くことが出來るものではありません。日曜學校の教師は或の意味に於て其の受持つて居る組の牧師で御座います。

それから仕度が出來てから其の教へることに就て子供ならば子供の立場から、青年ならば青年の立場から、婦人ならば婦人の立場から考へて見ることが大切であります。さうすれば其の學課の中から如何なる事柄に就て話しませうかを直に擇び出す事が出來ると思ひます。勿論其の學課の中に在る材料を殘らず生徒に教へ込むことは却てむづかしいことてありますから、其の中の最適と思ふもの一二を撰べばよろしいのであります。

自ら最も趣味ある最適と信ずるものを撰んで、自らが其の事柄の中のものとなつて教授しますならばそれは必ず成功で御座います。例へば歴史を教へるとしても、維新前のことを教へるならば、當時の皇室の振はなかつたこと、日本の國狀、德川幕府の治政の樣子など考へて、自分の最も趣味を有つ項目を中心として話すのが、一番成功するであらうと思ふ

ので御座います。日曜學校を敎へることも矢張り、それと同じことであります。

そこで、其の敎方はどんな風にするかと申しますと、(一)暗誦的方法で御座います。例へば詩篇二十三篇といふやうなものを生徒に暗誦させて敎込む仕方であります。敎師のいふ通りに生徒が眞似を致しまして終に其の章句を暗記するやうにするのであります。それは敎師が上手にいたしますならば、生徒をして歷史なり詩なり豫言なりの一章句を記臆させるやうに導いて敎込むことは困難ではありません。これは子供に敎るにはよいかも知れません、多少家に在つて勉强する習慣を養ふ助にもなるでせうが、しかし大人に暗誦方法を應用することは誤つて居ると思ひます。米國には大人でもチヤンと問答風の日曜學校敎科書が出來て居て、先生が順々に問ふと、生徒がこれに應じて順々に答へる、全く子供のやうな調子で暗誦をして居るのもあるといふことですが、それは考へもので御座います。(二)會話的方法で御座います。この仕方ならば敎師と生徒が常に談話するやうに問答するのでありますから、生徒の中には學課に就て用意のないものがありましても、能く其の學課に就て考へさせることが出來るので御座います。この方法は敎師に適當な人を得て十分生徒を指導し得る場合には頗る有効であると思ひます。例へばペテロの傳を敎へるとすれば、敎師がペテロの生涯の最も明な境目は何ですか、ペテロの始と終の相違比較、其の理由など題目を與へて尋ねますならば、生徒は自然に未だ氣がついて尋なかつた事柄までも考へ起させられることになつて、餘程有効であると思ひます。若し上手な敎師があつて此の方法と前にいつた暗誦の方法とを適宜に實行し得るならば、子供乃至中學校程度の日曜學校生徒のためには頗るよい方法とすることが出來やうと思ひます。(三)講義的方法で御座います。大人に敎授するには先づ此の方法による外はないと思ひます能く聖書を知つて巧に講義するならば、生徒の數は多くても少

なくても、差障がありませんから頗る便利であります。其の弊害をいへば、この方法ならば其の組の生徒は勉強せなくもよいのでありますから自然生徒が學課に對する用意を怠ることであります。又用意がありませんから其の學課の中の質問や研究的方面の事が閑却せられるやうになります。此の點について注意して弊害の起らないやうにせねばなりませぬ。

(四)研究的方法であります。獨逸の神學校などでは大概この方法を用ひて勉強して居るといふ事であります。即ち其の組に屬する人は皆教師の指導によつて各一つの事柄を調べるのであります。例へば保羅の傳を研究するには、或人は其の時代、或人はローマ帝國の有様、或人は保羅の學問、或人は保羅の信仰又は信仰を現した動機といふやうな風に研究するのであります。大人に對しては此の研究法は最も上等のものであると信じます。しかしこれは教育ある人々でなければ却て失敗に終ると思ひますが、果して此の方法の日曜學校の大人の組が出來て、適當な教師の指導があればこれに勝つた日曜學校大人組の教授法はあるまいと思ひます。

以上は日曜學校教授方法の數種を擧げたのでありますが、もとより此の外にもいくらも方法はあると思ひます。けれども一般に通じて最も大切なるものが一つあります。それは教師の熱心といふことであります。教師が高い理想を有つことであります。此の高い理想を有ち熱心に從事する教師は日曜學校教授の基礎であります。この二つのものがありますならば多少の缺點がありましても、よくこれを補つて餘りあると思ひます。即ち理想あり熱心あり而してこれに加ふるに最善の方法を以てすれば、日曜學校の目的は達し得られるので御座ります。(完)

○第十一回夏期修養會

例年多大の効果を收め來つた日本基督教女子青年會夏期修養會は七月廿一日より同二十九日迄横濱市山手町一七八フェリス女學校に於て其第十一回の會合を催します、清凉なる地に同信の友と親しみ、諸名士先輩の教導の下に靈の向上を圖らうとするのが本會の目的であります。回を重ぬるに從つて來會諸姉との交誼を深くし、共に胸襟を披いて信念を強くし來つた幹部一同は再び多大の期待をもつて諸姉の來會を望むで居ります。信者、來道者の別なく會員と會員ならざるとを問はず、老いたるも若きも、苟も基督に依つて眞の生活を求めらるゝ多數の婦人の來會を切望致します、今其の順序其他を左に掲けます。

第十一回夏期修養會順序

格言　その生命を得る者は之を失ひ我ためは生命を失ふ者は之を得べし。

○七月二十一日【金】夕

（午後七時）開會式　女子青年會中央委員長　井深花子
第十一回夏期修養會指導者　長谷川喜多子

○二十二日【土】午前

（自八時半至九時半）聖書の組

（一）求道者の組　横濱教會主事　外村義郎氏

（二）未定　東北學院教授　出村悌三郎氏

（三）宗教的修養書としての詩篇　神學士　稻垣陽一郎氏

（四）小預言者　共立女子神學校教師　城戸順子

（自　時十五分至十一時半）基督と婦人　廣岡淺子

○同　午後

（自四時）女子と法律　法學博士　鵜澤總明氏

（自六時半至七時十五分）夕陽會

○二十三日【日】午前

（自九時至十時）讃美禮拜

（自十時半）禮拜說教（生の死活）　聖公會神學院教頭　今井壽道氏

○同　午後

（自三時十五分 至四時十五分）求道者の組　廣岡淺子

（自七時 至八時十五分）夕　拜　城戸順子

○二十四日（月）午前

（自五時半）早天祈禱會

（自八時半 至九時半）聖書の組

（自十時十五分 至十一時半）題未定　芝教會及兩國教會牧師　星野光多氏

○同　午後

（自二時）親睦會

（自七時 至八時半）支部報告

○二十五日【火】午前

（自八時半 至九時半）聖書の組

（自十時十五分 至十一時半）生命に到るの途　日本指路教會牧師　毛利官治氏

○同　午後

（自六時半 至七時十五分）夕陽會

（自七時半 至八時四十五分）社會狀態　高田愼吾氏

○二十六日【水】午前

（自五時半）早天祈禱會

（自八時 至九時半）聖書の組

（自十時十五分 至十一時半）献巳奉仕のローマンス　稻垣陽一郎氏

○同　午後

（自七時 至八時十五分）協議會

○二十七日【木】午前

（自八時半 至九時半）聖書の組

（自十時十五分 至十一時半）日常生活に於ける聖潔　救世軍大佐　山室軍平氏

○同　午後

（自六時半）夕陽會

（自七時 至八時四十五分）婦人傳道に就て　長谷川喜多子

○二十八日【金】午前

（自五時半）早天祈禱會

（自八時半 至九時半）聖書の組

（自十時十五分 至十一時半）題未定　富士見町教會牧師　植村正久氏

○同　午後

（七　時）　送　別　會

（注意）集會のひま／＼には成るべく諸先生方に接して個人的教示を受けられたし

會　期　大正五年七月二十一日(金曜日)夕より七月二十八日(金)夕迄、來會者は二十一日午後迄に來着し二十九日朝まで滯在を願ひたし。

會　場　神奈川縣横濱市山手町一七八フェリス女學校。高燥の地にありますから其清涼爽快なる事は前回修養會場より遙かであります。

道　筋　横濱停車場より本牧行電車に乘り本町にて下車し左側の坂道を少し登れば同校門前に出ます。

手荷物　荷物は横濱停車場より市内配達の便があります。

會　費　金壹圓(一日分拾五錢)

滯在費　金八拾錢(一日分)金六拾錢（一泊二食）金貳拾錢(一食)二十一日午後より二十九日朝まで御滯在の方は金六圓(但病氣或は急用にて退會するもの丶外會費食費は返金せず)

携帶品　敷布、枕布、上草履は各自必らず携帶を願ひます本年は旅館で開くのでない爲他より借入の必要がありますから掛布團（或は毛布）及び枕を持參せられなば好都合です望みの方はラケット、寫眞機を御持參なさるもよろしき事と存じます。

聖書の組案内　來會者は前もつて何れの組に出席せんか、豫め選定して來會を願ひます。又一校より數人の代表者があれば成可く各自異なりし組に出席なさる樣心掛けを願ひます。

申　込　七月十四日(金)迄に女子青年會本部に申込下みさい。種々の準備もありますから成るべく至急に願ひ申します。

夏期修養會指導者　長谷川喜多子

委　員　井深花子　星野愛子

小此木松子　加藤高子　ミスレーカン
ミスソール　植村環子　野村道子
山田千代子　松宮しん子　小池實惠子
ミスデントン　阪本花代　三谷民子
宮川幹枝　志立たき子

○學生委員會　去る五月中央委員例會に於て其目的は學生青年會に於ける在來及び將來に於ける種々の働を助成せん爲に新たに學生委員を選定せしが六月八日午後四時より其第一同委員會を催し、ミセスフィッシャー、ミスエマソン、三谷民子姉、ミスレーガンの出席あり各方面より日本女學生の爲協議するところありし末、左に掲ぐる諸問題につき研究調査する筈にて成るべく多くの諸姉より其の事項につき報告を求めこれを基礎として研究する豫定なりとされば誰人にても進んで調査報告を寄せられたことを希望するとの事なり。

一、(イ)住居する町村の名、(ロ)其人　、(ハ)基督教々會數、(ニ)寺院數、(ホ)學校數、(ヘ)病院數、(ト)工場數、(チ)如何なる種類の工場なりや

二、(イ)近隣の兒童數、(ロ)爛目又は頭に腫物ある兒童數、(ハ)よく咳する兒童數、(ニ)誰が彼等の世話をなすや、(ホ)兒童遊戯の種類、(善か惡か)

三、(イ)兒童に對して不健康なりと思ふこと五つ擧げよ、(ロ)不衛生的なる兒童の食物五種をあげよ。

四、(イ)近隣の子守歌、(ロ)彼等の教育程度、(ハ)子守歌の種類、(善か善か、)(ニ)在來の子守歌に換ふべきよきものあるや

五、(イ)近隣の女學生數、(ロ)彼等の休暇利用法、(ハ)凡そ幾人時を冗費するや、(ニ)彼等が休暇中讀む書物の種類、(ホ)裁縫の出來得る者にて他人に其技を分たんとする者の數。

六、猫犬馬等生物に對して親切なるや。

七、家庭又は其地方に於て不衛生なりと思ふこと十種を擧げよ。

○東京基督教女子青年會　**セロ音樂會**●●●●　ミスハマンドの厚意により六月七日午後四時より本會館に於て臨時音樂會を開く、流石米國シカゴ市のセロの名手と聞えたる孃の事なれば集れるもの無慮四百餘名に及び場内に溢るゝばかりにて近頃になき盛會なりし。▲**英語社交會**●●●●　六月十六日午後四時より今期最終の英語社交會を本舘に於て開催す出席者凡そ三十名にてミスフワニングは米國に於ける婦人のみ

にて組織せる慈善社會の事業等細々と講話ありたり。次回は特に英文學を研究的に驗べ尚又英語會話の發達を計るべく新たに三名の委員を選びたり。而して此有益なる會を益々盛になす爲に諸員の振つて出席あらん事を乞ふ。▲慈善市計畫　本會維持金募集の爲會員及び會友諸姉の同情を賴みて今年の秋期（十月頃）本會舘に於てバザーを開催すべく計畫せり六月二十一日午後には東京委員教育部代表委員寄宿舍代表委員の諸姉と共に其方法等を相談せり。追て悉しき事は次號にて紹介すべし。尚諸姉の親切なる考案を承るを得ば幸なり。▲鵠澤夏期休養所　前號にて紹介せし鵠沼夏期婦人休養所に宿泊希望の方は至急通知ありたし。▲ミス、マシウ　七月十三日橫濱歸着の豫定

○廓清會五週年記念演說會　六月廿四日土曜午後七時より神田青年會館にて記年演說會を催す島田衆議院議長、吉田熊次博士、山室大佐、安部磯雄諸氏の熱烈なる演說あり、近來稀なる盛會なりき。

○會友會費領收（本部報告）

一金壹圓也
山梨英和女學校（大正五ノ二ー六ノ一）
小野　小松（大正五ノ四ー六ノ三）　岸本　一枝（大正四ノ七ー五ノ六）
葛山　きよ（大正五ノ六ー六ノ五）

一金貳圓也　神宮茂子（大正四ノ四ー六ノ三）

○雜誌「女子青年界」代金領收

一金七拾錢也
盛岡青年會（大正五ノ五ー六ノ四）　雨森　みち（大正五ノ二ー六ノ一）
松本千代子（大正五ノ一ーー十二）　高橋　隆篤（大正四ノ一ーー十二）
石山　梅子（大正六ノ六ー六ノ五）　田中　秀子（大正五ノ　ー六ノ五）
橫尾　しづ（大正四ノ六ー五ノ五）　駒澤　みち（大正五ノ五ー六ノ四）
小林　やの（大正五ノ八ー六ノ七）　小野　たけ（大正五ノ六ー六ノ四）
渡邊　かず（大正五ノ　ー六ノ五）　村岡　まつ（同　上）
藤田　たき（同　上）　安生　まり（同　上）
向笠　とみ（同　上）　會田ちやう（同　上）
弘前女學校青年會（大正五ノ四ー六ノ三）
小林　すみ（大正五ノ七ー　ノ六）　ミスハート（大正五ノ十一ー六ノ十）

一金四拾貳錢也
菅野みさを（大正五ノ六ー五ノ十二）　片岡　民子（同　上）

一金參拾五錢也　本間登子（大正五ノ七月迄五册分）

一金貳圓拾錢也　ミセスヘール（大正四ノ三ー六ノ二）

一金拾四錢也　足立十重子（大正五ノ六ー七）

一金八拾錢也　葛山きよ（大正四ノ十二ー五ノ十二）

日本基督教女子青年會支部及其他位置

東京基督教女子青年會	東京市神田區北神保町十四
廣島女學校青年會	廣島市上流川町
同志社女學校青年會	京都市上京區今出川通
プール女學校青年會	大阪市西區川口町一二
ウヰルミナ女學校青年會	大阪市東區玉造
札幌女子青年會	札幌區北四條北星女學校內
函館遺愛女學校青年會	北海道湯ノ川通り
宮城女學校青年會	仙臺市東三番町
クリスチアン女學校青年會	宇都宮市二條町七二
フエリス女學校青年會	横濱市山手町一七八
共立女學校青年會	横濱市山手町二一二
女子英學塾青年會	東京市麹町區五番町一六
女子學院青年會	東京市麹町區上二番町三三
青山女學院青年會	東京市青山南町七ノ一
女子傳道學校青年會	東京市小石川區指ヶ谷町八四
神戸女學院青年會	神戸市山本通四丁目
金城女學校青年會	名古屋市東區白壁町四丁目
盛岡女子青年會	盛岡市內丸タピング方
德島女子青年會	德島市富田浦仲町ミスリツン方
横濱女子青年會	横濱市本町五一
搜眞女學校青年會	神奈川一本松
弘前女學校青年會	青森縣弘前市代官町
東洋英和女子學校青年會	東京市麻布鳥居坂八
梅花幼稚園保姆傳習所青年會	信州上田丸堀
横濱英和女學校青年會	横濱市山手三四四B
第一寄宿舍	東京市牛込區納戸町四五
第二寄宿舍	東京小石川區水道町二六(安藤坂)
好友園(幼稚園)	東京市小石川區金富町五七
旅行者の友事務所	東京市本郷湯島天神町一ノ二四

一「女子青年界」定價及廣告料

定價郵税共		內地	海外
	一部	金八錢	金拾壹錢
	一年前金	八拾錢	金壹圓貳拾錢

廣告料	一回掲載
一行	金參拾錢
四分一頁	金二圓
半頁	三圓五拾錢
全頁	金六圓

年極又は回數により割引有

大正五年六月廿八日印刷納本
大正五年七月一日發行

發行所 神田區北神保町十四番地 日本基督教女子青年會
發行兼編輯人 神田區北神保町十四番地 河井道子
印刷人 芝區櫻田和泉町七番地 前川吉次郎
印刷所 芝區櫻田和泉町七番地 三成舍

The afternoons are given to rest and recreation.

Fees: registration, ¥1.00, or .15 per day.
board, 6.00, or .80 per day, .60 for one night and two meals, .25 one meal.

There will be no rebate for full-time delegates who return home early, except in cases of illness or special necessity.

Baggage: bring over-blankets if you have them, sheets, pillow, tennis rackets, kodaks.

From Yokohama station there is "shinai" delivery, so baggage can be sent directly to the school. Have it well marked with your name.

Car-service. Take either Honmoku or Motomachi cars from Yokohama station, and get off at Motomachi. A lane to the left leads up a long stairway to the main entrance of the school.

Applications should reach the National Committee YWCA, 14 Kitajimbocho, Kanda, Tokyo, by Friday, July 14. Foreigners who are willing to take Japanese accommodations are cordially invited to attend the conference. There is also a good foreign hotel within a few minutes' walk if any wish foreign food.

NATIONAL COMMITTEE

Headquarters: 14 Kitajimbocho, Kanda, Tokyo.
Telephones: Residence, Bancho 4563; Office, Honkyoku 598.
Cable and telegraph address, Emissarius, Tokyo.
Furikae chokin, Tokyo 23723.

Mrs. Hana Ibuka, Chairman
Dr. Kei Okami, Vice-chairman
Miss Tami Mitani, Secretary
Dr. Tomo Inoue, Treasurer
Miss Michi Kawai, Active Member World's Committee
Miss Ume Tsuda
Miss A. B. West
Miss Uta Suzuki
Miss Kita Hasegawa
Miss Sarah Ellis
Miss Chiyo Yamada
Mrs. E. W. Clement
Miss Ai Hoshino
Miss Jun Kido
Miss Matsu Okonogi
Mrs. Taki Shidachi
Mrs. G. M. Fisher

NON-RESIDENT MEMBERS

Madame Asa Hirooka, Osaka
Mrs. Koito Saiki, Kyoto
Miss M. F. Denton, Kyoto
Miss Michi Matsuda, Kyoto
Miss Yoshi Kajiro, Okayama
Miss K. Tristram, Osaka
Miss Susan Searle, Kobe
Miss N. B. Gaines, Hiroshima

SECRETARIES

Miss Michi Kawai, National
Miss Margaret Matthew, National
Miss Ruth Ragan, National Office
Miss Mary Page, General, Tokyo
Miss Taka Kato, General, Tokyo
Miss Emma Kaufman, Associate, Tokyo
Miss Mary Baker, General, Yokohama

ELEVENTH ANNUAL SUMMER CONFERENCE

YOUNG WOMEN'S CHRISTIAN ASSOCIATION OF JAPAN

July 21—29, 1916.

Time: Friday evening, July 21—Saturday morning, July 29, 1916

Place: Ferris Jo Gakko, 178 Yamate, Yokohama

Motto: Matthew 10: 39

Leader: Miss Kita Hasegawa

Bible teachers: Beginners, Mr. Yoshiro Tonomura; The Psalms, Rev. Yoichiro Inagaki; Minor Prophets, Miss Jun Kido; Mr. Teisaburo Demura

Friday, July 21,	7:00 P.M.	Opening, Miss Hasegawa, Mrs. Ibuka (chairman National Committee)
Saturday, July 22,	8:30- 9:30	Bible hour
	10:15-11:30	"Christ and Women", Madame Asa Hirooka
	4:00- 5:15	"Women and Law", Dr. Somei Usawa
Sunday, July 23,	9:00-10:00	Song service
	10:30	Church service, "Life or Death in Life", Rev. Judo Imai
	3:00- 4:15	Meeting for inquirers, Madame Hirooka
	7:00- 8:00	Vespers, Miss Jun Kido
Monday, July 24,	5:30	Sunrise prayer-meeting
	8:30- 9:30	Bible hour
	10:15-11:30	Lecture, Rev. Kota Hoshino
	2:00	Shimbokwai
	7:00- 8:30	Association hour,—reports
Tuesday, July 25,	8:30- 9:30	Bible hour
	10:15-11:30	Lecture, Rev. Kanji Mori
	6:30- 7:15	Sunset prayer meeting
	7:30- 8:45	"Social Conditions in Japan", Mr. Shingo Takata, (of the Home Department)
Wednesday, July 26,	5:30	Sunrise prayer-meeting
	8:30- 9:30	Bible hour
	10:15-11:30	Lecture, Mr. Inagaki
	7:00- 8:30	Association hour,—committee councils
Thursday, July 27,	8:30- 9:30	Bible hour
	10:15-11:30	"Purity in Daily Life", Colonel Yamamuro
	6:30- 7:15	Sunset prayer-meeting
	7:30- 8:45	"Christian Work for Women", Miss Hasegawa
Friday, July 28,	5:30	Sunrise prayer-meeting
	8:30- 9:30	Bible hour
	10:15-11:30	Lecture, Rev. Masahisa Uemura
	7:00	Closing

女子青年界第拾參卷第七號

大正五年六月廿八日印刷納本 大正五年七月一日發行 明治卅七年五月七日第三種郵便物認可